

# 養豚における低コスト生産のポイント

愛媛県畜産研究センター

## ① 出荷日齢の短縮

- ・ TDN 及び CP の高い配合飼料を出荷前まで給与し DG の向上を図り、出荷日齢を短縮する。

注意：休薬期間の厳守：出荷前7日は抗生物質フリーの飼料へ切り替えること。

出荷日齢までの飼料費を算出した上で、給与する配合飼料の選定が必要不可欠。

- ・ 目標出荷日齢 150～160 日 出荷体重 110 kg

## ② ウエットフィーダーの利用

### 【メリット】

- ・ エサこぼしが少なくなるため、飼料のロスが少なくなる。
- ・ ウエットで採食するため、食い込みが良くなり、その結果、出荷日数の短縮、飼料要求率の向上につながり、生産コスト削減を図ることが可能。

### 【デメリット】

- ・ ウエットフィーダー専用の給餌器の購入や給水設備の改修が必要となり、新たな設備投資が必要となる。

## ③ 管理上の飼料コスト削減ポイント

### ○種豚

- ・ エサこぼしを出来るだけなくす。こぼしているエサは拾って再度与える。
  - \* そのためには、豚舎の日頃の清掃徹底が大前提
- ・ 分娩豚房の床はスノコタイプが多いので、給餌時は母豚がエサをこぼしていないか確認すること。

### ○哺乳豚

- ・ えつけ飼料の給与の方法
- ・ えつけ飼料を一度に大量に給与しない⇒スノコに下に落ちてしまい無駄になる。
  - 1日2回に分け適量を給与する⇒給餌機の中がキレイになっているとエサが足りていない又は母乳が足りていないため少し給与量を上げる。
- ・ えつけは生後1週間は、えつけをお湯に解かして給与することで、エサの無駄を防げる。

## ○子豚、肥育豚

- ・ 餌箱に一度に大量の飼料を給与しない。
- ・ その日に完食できる程度の採食量を与えること。
- ・ 自動給餌機でタイマー給与は、一度に大量の飼料を給与するため、常に飼料の採食量を確認し、適量給与に努める。
- ・ 配合飼料の粉が餌箱に残ると、食い込みが悪化し、飼料の無駄が生じる。
- ・ 出荷が決定した豚は出荷日前 2~3 日間は配合飼料を与えない⇒細かいことだが年間出荷頭数が多ければこれだけで飼料コスト削減が可能となる。